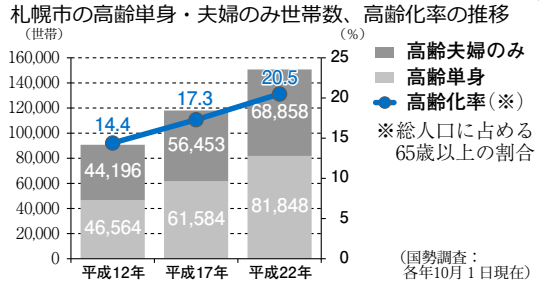
誰もが安心して暮らせるまちに

～福祉のまち推進センター～

急速に進む少子・高齢化や単身世帯の増加、また、過去の大災害の経験などから、地域での日常的な支え合いの大切さが、改めて見直されてきています。

今回は、地域の福祉の拠点として、ご近所のつながり・支え合いを支援している「福祉のまち推進センター」の活動を紹介します。



今後も高齢化率は上昇し、平成27年には約４人に１人が65歳以上の高齢者になると予想されています。

どんな活動をしているの？

地域で安心して暮らすためには、介護保険などの社会保障制度だけでは対応することが難しい場合があります。

福祉のまち推進センターでは、地域ぐるみで互いに支え合う環境を整え、誰もがいつまでも安心して暮らせる地域社会をつくるため、さまざまな活動（福まち活動）を行っています。

見守り・安否確認

一人暮らしの高齢者の方などが安心して生活できるよう、変わりがないか外から見守ったり、日常的な声掛けや定期的な訪問などを行っています。

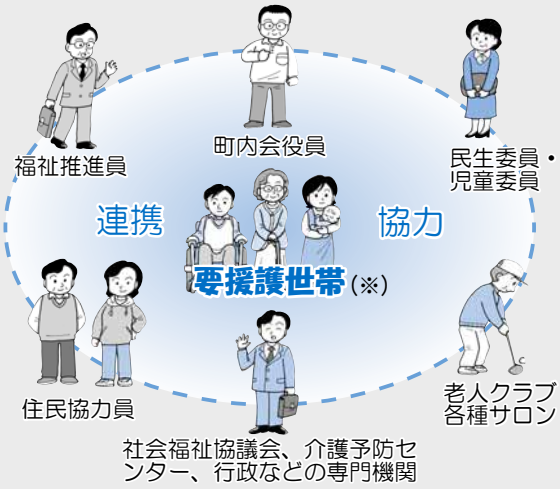
マップづくり

見守り活動のため、要援護世帯などを掲載したマップづくりに取り組んでいます。マップに避難場所などを書き加えることで災害時の助け合いにも役立てます。

交流活動

身近な支え合い活動の第一歩とするため、ご近所間の交流や普段からの困り事を相談する場として、食事会や異世代交流などいろいろな行事を開催しています。

福祉のまち推進センター ネットワーク図



※要援護世帯とは、高齢者や障がいのある方、子育て中の方など、周囲の支援を必要とする世帯のことです。

サロン活動

高齢者や障がいのある方、子育て中の方などの孤独感の解消や生きがいづくりのため、身近な場所に集まって気軽に交流できる各種サロンを開催しています。

生活支援活動

高齢者や障がいのある方が、地域の中で安心して生活できるよう、ごみ出しや除雪、話し相手など、地域でできる範囲でのお手伝いをしています。

研修・広報活動

福まち活動に関心を持ってもらうため、介護予防やボランティア活動に関する研修会を開催したり、行事や活動を紹介する広報誌などを回覧・配布しています。

あなたも参加してみませんか？

一人暮らしの高齢者の家の前を通ったとき、夜でも洗濯物が干したままになっているなど、普段の様子との変化に気付けば、それも福まち活動（見守り活動）です。また、高齢者の家のごみを自宅のごみと一緒に運んだり、子育て中のお母さんの話し相手になるのも、福まち活動（生活支援活動）になります。

日常生活の延長上でできる範囲の活動でも、誰もが安心して暮らせる、やさしいまちづくりの大切な一歩となります。

「困っている人のお手伝いがしたい」、「子育て中の親子を応援しよう」などと考えている方、また、日常生活が不安で手助けの必要な方は、各地区の福祉のまち推進センターまで、お気軽にお問い合わせください。